

DOWAS NEWS

2019

Vol.22 No.1

海洋深層水利用学会2018年度第3回理事会報告
安永 健(海洋深層水利用学会 事務局長) … 1
第22回海洋深層水利用学会「2018韓国大会」報告
今田 千秋(DOWAS NEWS 編集長)… 5



海洋深層水利用学会

海洋深層水利用学会 2018 年度第 3 回理事会報告

安永 健（海洋深層水利用学会 事務局長）

2019 年 3 月 15 日(金) に東京海洋大学 品川キャンパス 2 号館において、海洋深層水利用学会 2018 年度第 3 回理事会が開かれた。議事概要は以下のとおりである。

議事：2018 年度活動内容、2019 年度活動計画他が報告された。

1. 日台韓交流委員会（大塚委員長）

- a. 議案書に基づき、2018 年度の日台韓交流の活動内容が報告され、2019 年度の活動計画が諮られ承認された
- b. 2018 年 10 月 18 日に海洋深層水利用学会、台湾深層海水資源利用学会、韓国海洋深層水利用学会の 3 学会の交流協定を第 22 回海洋深層水利用学会全国大会海洋深層水 2018 韓国大会において締結した
- c. 3 学会の 3 国間協定締結により、日台交流委員会は日台韓交流委員会へ改名し、日台韓交流委員会が発足した
- d. 台湾深層海水資源利用学会研究成果発表会に高橋会長が招待され、大塚委員長が講演者として参加した（2018 年 12 月 6 日、於：集思台大会議センター（台北市））
- e. 台湾深層海水資源利用学会特別シンポジウムに高橋会長が出席した（2019 年 12 月 7 日、於：国立台湾史前文化会館（台東市））
- f. 2019 年度は日台韓交流協定に基づき、相互の学会への(1)会員の派遣、(2)学会論文集への論文投稿、および(3)学会誌への記載事項に関する活動を行う
- g. 2019 年度の活動費用として、100,000 円を予定している

2. ホームページ編集委員会（尾高委員長）

- a. 議案書に基づき、2018 年度内容が報告され、2019 年度活動計画が諮られ承認された
- b. ホームページ更新による総会・理事会、全国大会、利用者懇談会、学会賞などの案内・報告、論文誌の掲載など
- c. メールアドレス登録会員へのメール配信（ホームページ更新の案内、共催・協賛イベント、会員提供情報など）
- d. サイト内検索機能の追加
- e. ホームページへのバナー広告の運用(案)を提示頂いた。料金、条件については、現状提示額から変更の可能性を示しておき、2019 年度から開始予定。まずは事務局から団体会員へ、バナー広告の開始を周知することとした
- f. 登録会員へのメール配信について、メール設定により[迷惑メールフォルダ]に入る可能性があり、“迷惑メールに分類されないための状況確認および受信設定のお願い”について、事務局から紙面にて会員に周知することとした
- g. 2019 年度以降は、ホームページの新着情報欄にメール配信情報も記載し、「メール配信履歴」掲載ページへのリンクを設定する
- h. 2019 年度予算は、委託先の国際文献からの要請に基づき、約 31 万円を予定している

3. ニュースレター編集委員会（今田）

- a. 2018年度の活動状況の進捗状況について報告された
- b. 2019年度の次号ニュースレターをできるだけ早くに作成予定である

4. 学会賞授賞審査委員会（池上委員長）

- a. 議案書に基づき、2018年度の学会賞授賞者審査結果の報告および2019年度の活動計画が諮られ承認された
- b. 2018年度は期限内に4件(自薦0、薦4)の推薦有り、3件の学会賞および1件の特別功労賞を授与し、それぞれ第22回海洋深層水利用学会全国大会海洋深層水2018韓国大会において表彰式を行った
- c. 2019年度は4月1日付けで、学会賞および特別功労賞の候補者募集を開始する予定
- d. 特別功労賞の推薦フォームは、学会賞と別フォームで作成する
- e. 新設した特別功労賞について、以下の内規とする：

海洋深層水利用学会特別功労賞内規**授賞の目的**

海洋深層水利用学会特別功労賞（以下、特別功労賞）は、海洋深層水利用研究の普及および人材育成、その他事業に貢献するところが大きいと認められる成果を公表した個人または団体を表彰するための賞である

授賞の対象

会員より自薦または他薦された個人会員または団体会員とする

審査の対象

- ①普及および人材育成活動
- ②論説・記事・ポスター発表
- ③利用事業促進
- ④その他授賞審査委員会が設定した対象

特別功労賞の選考

- ・理事会に授賞審査委員会を設ける
- ・委員会は、委員長を含め数名程度の委員で構成する
- ・委員の任期は1年とし、再任を妨げない
- ・審査委員長は、授賞候補者を選定し理事会に推薦する
- ・受賞者は、授賞審査委員会の推薦に基づき理事会が決定する
- ・授与件数は、年1件未満とする。

授賞の時期

毎年、全国大会において特別功労賞を授与する

賞品

賞状を授与する

5. 利用促進委員会（山田委員長）

- a. 議案書に基づき、2018年度活動内容が報告され、2019年度活動計画が諮られ承認された
- b. 2018年利用者懇談会は、韓国大会2018年10月17日に歓迎レセプションとして開催された
- c. 海洋深層水の周知と利用促進啓発(学術)活動として、日本補完代替医療学会誌に総説論文を投稿し、

受理・掲載されている(山本他、海洋深層水の未病・予防医学分野における展望、15(2) 2018, pp.67-77(J-Stage で閲覧可))

- d. 海洋深層水の周知と利用促進啓発(実証)活動として、海洋深層水の摂取による健康維持・増進効果の臨床研究を目的に、海洋深層水のミネラル成分配合を飲料水及び調理用として摂取することによる健康維持・増進効果に関する大規模介入試験の実施を久米島で実施することを企画提案している。研究費用は全額補助金などで賄う
- e. 海洋深層水の周知と利用促進啓発(実証)活動として、海洋深層水の摂取による健康維持・増進効果の臨床研究を目的に、海洋深層水のミネラル成分配合を飲料水及び調理用として摂取することによる健康維持・増進効果に関する大規模介入試験の実施を久米島で実施する”久米島プロジェクト”を企画提案した
- f. 2019 年度の海洋深層水の周知と利用促進啓発(学術)活動として、海洋深層水利用におけるマイクロプラスチック問題について、レビュー論文を作成し、本学会の学会誌に投稿し、広く利用者に周知・啓発を図る予定
- g. 2019 年度の海洋深層水の周知と利用促進啓発(実証)活動として、久米島プロジェクトの具体的な実施手段について詳細内容を提案し、実施に向けて検討していく予定。研究費用は全額補助金などで賄う
- h. 2019 年度予算は久米島プロジェクトの調整費用を含め 100,000 円とする

6. 研究発表企画委員会 (清水委員長／事務局代読)

- a. 議案書に基づき、2018 年度活動内容が報告され、2019 年度活動計画および第 23 回海洋深層水 2019 鹿児島大会実施要綱が諮られ承認された
 - b. 海洋深層水 2018 韓国大会が 2018 年 10 月 18 日(木)、19 日(金)に、大韓民国高城郡の「国会研修館」において開催された。研究発表は 24 題、ポスター発表は 11 件、計 174 名(日本:58 名、台湾:17 名、韓国:79 名)が参加した
 - c. 2019 年は鹿児島大会として、10 月 10 日に鹿児島大学内で講演会、11 日~12 日に甕島の見学ツアーとする
 - d. 甕島の見学ツアーが参加者によって複数パターンがあるため、ホームページでの申し込みで選択肢を示し、参加申込の連絡は鹿児島海洋深層水協議会事務局を追加する
 - e. 大会の共催となる鹿児島海洋深層水協議会および鹿児島大学が主体となり、大会開催期間中に、有料で商品展示ブースの設置、広告の展示および学会誌への広告を掲載することを妨げない。ただし、学会誌の広告については、これまで学会誌の有料広告費用として検討した料金を適用する。白黒 1/4 サイズおよびカラーについての規定がないため、下記の通り規定する
- | | | | |
|-----|-------|-------------|----------|
| サイズ | 白黒 | カラー(新設) | |
| A4 | 1 項 | 30,000 円 | 60,000 円 |
| A4 | 1/2 項 | 15,000 円 | 50,000 円 |
| A4 | 1/4 項 | 7,500 円(新設) | |
- f. 共催である鹿児島大学の学生の参加希望者には、無料で講演に招待する。ただし、講演要旨集の配布部数は上限を設け、参加者全員に配布されることを保証しない
 - g. 2020 年度の研究発表会は佐渡で実施するよう調整している

7. 論文誌編集委員会 (大内委員長)

- a. 議案書に基づき、2018 年度活動内容が報告され、2019 年度活動計画が諮られ承認された
- b. 2018 年度「海洋深層水研究 19 号」は 10 月に第 1 号および第 2 号を発行した。第 2 号は韓国大会の

論文要旨である

- c. 第3号は原著論文、韓国大会の報告、日台韓の学会長および企業代表の挨拶、学会賞受賞者の寄稿、企画原稿、その他ニュースレター、理事会報告などを掲載し、4月頃に発行予定
- d. 前回理事会の提案を基に、2018年度から、英文校閲として Benjamin Martin 氏が加わった
- e. 2019年度は恒例通り3号の発行を予定し、体制は継続の予定である
- f. 学会誌への広告の掲載について、積極的な勧誘をお願いしたく、総会などでも周知をお願いしたい

8. 総合戦略検討委員会（池上委員／井上委員）

- a. 議案書に基づき、2018年度活動内容が報告され、2019年度活動計画が諮られ承認された
- b. 2018年度は内閣海洋総合政策本部の事務局に、新しい第三期「海洋基本計画」について講演して頂いた
- c. 2019年度は関係省庁と情報交換し、国内の海洋深層水に関するプロジェクトの事業化の推進および来年度概算要求に向けて地元の活動を支援する
- d. 海洋深層水利用に関する学術分野の推進として、科研費「新学術領域研究(研究領域提案型)」への申請を提案する。具体的内容については、2019年度理事会・総会前に有志で集まり、具体的内容を検討する
- e. 全国の海洋深層水の学術分野での利用推進として、全国共同利用共同研究施設である佐賀大学海洋エネルギー研究センターが協力して、可能な範囲で学術的な利用促進方法の検討を実施する

9. 事務局（安永事務局長）

- a. 議案書資料に基づき 2018年度の会員動向、収支報告が報告され、2019年度活動計画が諮られ承認された
- b. 2018年の新規度入会者は、個人4名、退会者は個人6名、団体1機関、個人1名、団体1機関が除名予定である
- c. 2019年4月1日時点での会員数は個人122名、団体42機関を見込んでいる
- d. 2018年度の収支は、405,000円の赤字予算に対して、491,425円の黒字となった。これは、韓国での研究発表が韓国海洋深層水利用学会の協力により、本学会の負担が少なかったこと、論文誌第3号の未発行に因るものである。
- e. 2019年度の予算案は、765,000円の赤字を見込んでいる。これらは各委員会の予算を踏まえた内容であり、論文誌については第3号の発行費用が反映されるべきであるが、近年の執行状況から、本予算案内で執行可能と見込む
- f. 会員の方には、財政状況を理解頂き、学会誌、ホームページなどへの広告の掲載に協力を頂くべく呼びかける
- g. 2019年度第1回理事会および総会は2019年5月29日(水)とし、時間などは下記素案を基に計画する:

第1回理事会：13:00～14:00（於：東京海洋大学白鷹館2階多目的スペース1）

総会：15:00～15:50（於：東京海洋大学白鷹館2階多目的スペース1）

講演会：16:00～17:30（於：東京海洋大学白鷹館2階多目的スペース1）

情報交換会：18:00～20:00（於：東京海洋大学、生協食堂）

以上

第 22 回海洋深層水利用学会「2018 韓国大会」が韓国海洋深層水利用学会との共催で行われましたので、下記に報告いたします。

開催場所：韓国 高城 国立研修館

【開催概要】

共催：海洋深層水利用学会・韓国海洋深層水利用学会

協賛：江原道高城郡・京東大学

委員長：清水 勝公（清水建設株式会社）

会期：2018 年 10 月 18 日（木）～19 日（金）

*なお、前日の 10 月 17 日（水）に利用者交流会が韓国海洋深層水利用学会主催で開催されました。また、10 月 19 日(金)に見学会が行われ、深層水取水施設視察、深層水工場視察等、主要 5 施設の視察後、スケトウダラ祭りで夕食会が行われました。

【開催状況】

オープニング

開会挨拶：高橋 正征（海洋深層水利用学会会長・東京大学名誉教授・高知大学名誉教授）

韓国海洋深層水利用学会会長挨拶：魚 再善（韓国海洋深層水利用学会会長・京東大学海洋深層水学科教授）

記念挨拶：全 成龍（京東大学総長）

*その他、来賓挨拶が行われました。

【研究発表】

海洋・水質／生物・水産／農業・畜産関連：12 題

健康・医療関連：5 題

利活用システム関連他：7 題

ポスター発表：11 題

【参加状況】参加者：日本：58 名、台湾：17 名、韓国：79 名（内、京東大学学生 30 名）
総員 154 名（+スタッフ 20 名）

水産、養殖、健康、医療、利用開発と全 24 件の研究成果発表が、日本、台湾、韓国の研究者から行われました。また、3 か国語同時通訳があり、ここ数年では最大規模の開催内容でした。

魚 再善教授（韓国海洋深層水利用学会会長・京東大学海洋深層水学科教授）より、韓国の深層水産業の現状報告がありました。韓国東海岸に 4 箇所取水地があり、2008 年に海洋深層水関連法律が施行されて以来、本格的な研究開発や商品化が行われ年商規模で 300 億円を超えているとのことでした。

2017 年の夏、100 日間以上も長引く干ばつに見舞われ、生活面、農業経済面で深刻な被害に直面した

ことも影響し、海洋深層水が水資源確保の1つとして注目されており、今後拡大がみこまれるということでした。



*魚 再善教授

今回の学会で、初めて3カ国の研究学会が情報を共有することが締結されました。



*締結式

海洋深層水利用学会 2018 年度学会賞が下記の通り決定し、研究発表会（韓国大会）に合わせて、2018 年 10 月 18 日に表彰式が行われました。



*学会賞受賞者

【授与対象および選考理由】

大内 一之 氏（株式会社大内海洋コンサルタント）

「海洋深層水による海域肥沃化のための洋上取水装置の開発と海洋深層水の大規模活用技術」

〈選考理由〉

大内一之氏は、海洋深層水を日量 10 万トン汲み上げる海域肥沃化装置「拓海」の装置開発と実証実験を主導し、2003 年 5 月から 2008 年 7 月まで現場実証実験を行い、深層水と表層水の混合水塊が密度流として生産層内を移動していく様子が 1 週間にわたって追跡され、海域肥沃化に決定的な初期段階が確認されるなど、優れた多くの成果を得ている。特に、大内氏が主導して開発した半没水型洋上浮体は、5 年間の洋上での係留設置実験の間、台風の直撃 2 回を含め、たびたびの荒天でも損傷は皆無であったように、洋上での深層水大量取水装置として長期間にわたって堅牢で安定した全天候型取水性能を維持することが証明された。

海洋での深層水と表層水の全天候型大量取水・放水装置の開発と、深層水の大規模活用これらの研究成果は、一連の研究論文などで数多く公表されている。

海洋での深層水と表層水の全天候型大量取水・放水装置の開発と、深層水の大規模活用技術の扉を開いた大内氏は、学会賞に十二分に値するものと評価した。

今田 千秋 氏（東京海洋大学）

「海洋深層水の有効利用と有用微生物の探索と産業への応用」

〈選考理由〉

今田千秋氏は、これまでほとんど微生物の分離例がない海洋深層水に着目し、全国 8 か所の取水設備から海洋深層水とその表面海水を入手し、微生物の群集構造を遺伝子レベルで調べ、表面海水には存在しない独自の群集構造が海洋深層水に存在し、新たな微生物の分離源として大変有望であることを明らかにしている。さらに、微生物数の極めて少ない海洋深層水をフィルターで大量濾過濃縮し、有用微生物の探索を行い、抗癌物質生産放線菌、酸化ストレス耐性物質生産海洋細菌、チロシナーゼインヒビター生産海洋性乳酸菌、酸化ストレス耐性物質生産性海洋酵母など産業的に有用な微生物の分離に成功し、各種培養細胞 に対する生物活性を明らかにしている。これらの中には陸上に全く見られないユニークな性状を有する微生物、新種の微生物および新規物質生産微生物も数多く存在し、海洋深層水が新規有用微生物の宝庫であることを示すなど、多くの成果を得ている。これらの成果は、本学会やその他の学会誌で論文となり、また講演発表も多数行われている。

海洋深層水の有効利用の推進として、有効微生物の探索と産業への応用に貢献された今田氏は、学会賞として十二分に値するものと評価した。

株式会社ポイントピュール

「海洋深層水をベースにした機能性化粧品の開発と普及」

〈選考理由〉

（株）ポイントピュールは、海洋深層水の清浄性と機能性に着目し、海洋深層水を独自の方法で精製して化粧品原料水をつくりだし、その化粧品原料水 100%に古くから美肌づくりによいとされる 30 種類の沖縄県産植物エキスを調査して、独自の“機能性化粧品”の開発・製造に成功し、海洋深層水をベースとした機能性化粧品の普及に貢献した。さらに、開発した機能性化粧品に留まらず、他社の要求に応じた機能性化粧品を新たに開発製造して需要に積極的に応えてきている。会社設立後、16 年間で、160 社の ODM（株）ポイントピュールが独自で製品開発）と OEM（相手先が製品の仕様と設計を依頼）の実績を上げている。

なお、(株)ポイントピュールの海洋深層水をベースにした機能性化粧品の製造技術は、経済産業省が主催する「ものづくり日本大賞」の製造・生産プロセス部門の優秀賞など多くの賞を授賞するなど、産業界でも高く評価されている。

以上、(株)ポイントピュールは、海洋深層水を化粧品原水に利用し、新規の機能性化粧品を開発して広く社会に利用を進め、海洋深層水の資源利用の新しい分野を開拓し、さらに海洋深層水という地域資源で地域活性化に貢献しており、その業績は、学会賞として十二分に値するものと評価した。

受賞者

左から、大道 敦 氏（株式会社ポイントピュール）、高橋会長、今田 千秋 氏（東京海洋大学）、大内 一之 氏（株式会社大内海洋コンサルタント）代理・實原 定幸 氏（株式会社ゼネシス）

海洋深層水利用学会 2018 年度特別功労賞

海洋深層水利用学会 2018 年度特別功労賞として、下記の通り決定し、研究発表会（韓国大会）に合わせて、2018 年 10 月 18 日に表彰式が行われました。

安 熙道（韓国海洋科学技術院）

「韓国における海洋深層水事業および学術分野の推進」

受賞者

左：高橋会長、右：安 熙道 氏（韓国海洋科学技術院）



*スケトウダラ祭



*懇親会